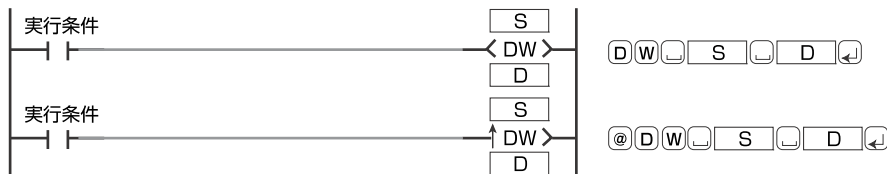


DW	}	DW(.U)	← DW →	データメモリ ライト	データメモリに直接定数を格納します。
		DW.S			
		DW.D			
		DW.L			
		DW.F			
		DW.DF			
@DW	}	@DW(.U)	↑ DW →		
		@DW.S			
		@DW.D			
		@DW.L			
		@DW.F			
		@DW.DF			

ラダープログラム

入力方法



オペランド	使用可能デバイス () : KV-1000は対応していません																	インデックス 修飾		
	ビットデバイス							ワードデバイス							定数	間接指定	ローカル デバイス			
	R	(DR)	MR LR (B)	T	C	CTC	CR	DM TM (W)	EM FM (ZF)	T	C	CTH	CTC	Z	CM	#\$	#TM		*	@
[S]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
[D]	○	-	○	-	-	-	○	○	○*6	○*4	○*4	○*4*7	○*4*7	○*5	○	-	○	○	○	○
オペランド	説明																			
[S]	格納する定数を指定します。*1																			
[D]	定数を格納するデバイスを指定します。*2 *3 *4																			

- *1 サフィックスにより扱える数値の範囲が異なります。
- *2 [D] にビットデバイスを指定した場合、連続する 16 ビット(.U/.S)、32 ビット(.D/.L/.F)または 64 ビット(.DF)を占有します。チャンネルの先頭以外(MR002, R1012など)を指定した場合、次のチャンネルにまたがって16/32/64ビットを扱います。
[D] にワードデバイスを指定した場合、1ワード(.U/.S)、2ワード(.D/.L/.F)または4ワード(.DF)を占有します。
- *3 デバイスT, C, CTHを指定した場合、現在値に書き込まれます。デバイスCTCを指定した場合、設定値に書き込まれます。
- *4 サフィックスが「.F」または「.DF」の場合、指定できません。
- *5 サフィックスが「.DF」の場合、Zは指定できません。
- *6 KV Nanoシリーズでは、EM、FM(ZF)は使用できません。
- *7 KV-7000シリーズでは、CTH、CTCは使用できません。

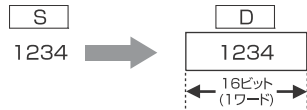
ポイント

DW.DF(@DW.DF)命令は、KV-7000シリーズCPUユニット、CPU機能バージョン2.0以降のKV-5000/3000シリーズCPUユニット、KV Nanoシリーズ基本ユニットで使用できます。

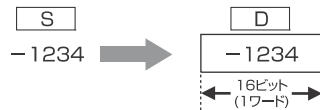
☞ 「KV-5000/3000 CPU機能バージョンについて」(2ページ)

動作説明

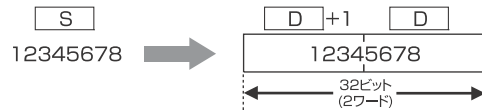
DW.(U) 実行条件がONのとき、 \boxed{S} で指定した16ビット符号無しBINデータを \boxed{D} で指定したデバイスに格納します。



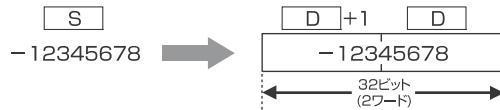
DW.S 実行条件がONのとき、 \boxed{S} で指定した16ビット符号付きBINデータを \boxed{D} で指定したデバイスに格納します。



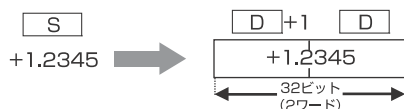
DW.D 実行条件がONのとき、 \boxed{S} で指定した32ビット符号無しBINデータを $[\boxed{D} \cdot \boxed{D} + 1]$ で指定したデバイスに格納します。



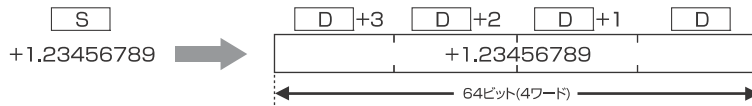
DW.L 実行条件がONのとき、 \boxed{S} で指定した32ビット符号付きBINデータを $[\boxed{D} \cdot \boxed{D} + 1]$ で指定した(ワード)デバイスに格納します。



DW.F 実行条件がONのとき、 \boxed{S} で指定した単精度浮動小数点型実数を $[\boxed{D} \cdot \boxed{D} + 1]$ で指定したデバイスに格納します。



DW.DF 実行条件がONのとき、 \boxed{S} で指定した倍精度浮動小数点型実数を $[\boxed{D} \cdot \boxed{D} + 1 \cdot \boxed{D} + 2 \cdot \boxed{D} + 3]$ で指定したデバイスに格納します。



@DW.□ 実行条件の立ち上がりで、1スキャンだけ実行します。

MOV
LDA
STA
PLDA
PSTA
TMIN
DW
BMOV
FMOV
PMOV
BYLMOV
BYBMOV

演算フラグ

CR2009	変化なし
CR2010	変化なし
CR2011	変化なし
CR2012	間接指定またはインデックス修飾の範囲が不適切な場合はON、それ以外はOFF。 オペランドに間接指定、インデックス修飾を指定していない場合は変化しません。

※ CR2012がONした場合、命令は実行されません。

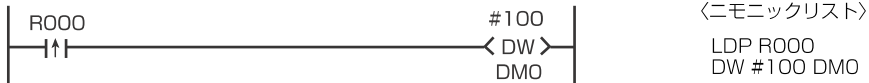
[KV-7500/7300/5500/5000/3000] CR2012がONした場合、CM5150～CM5176にエラーの詳細情報が格納されます。

[KV Nanoシリーズ] CR2012がONした場合、CM2250～CM2276にエラーの詳細情報が格納されます。

📖 「CR/CM一覧」(付-71ページ)

サンプルプログラム

入力リレーR000がONしたとき、データメモリDM0に#100を格納します。



MEMO

MOV
LDA
STA
PLDA
PSTA
TMIN
DW
BMOV
FMOV
PMOV
BYLMOV
BYBMOV